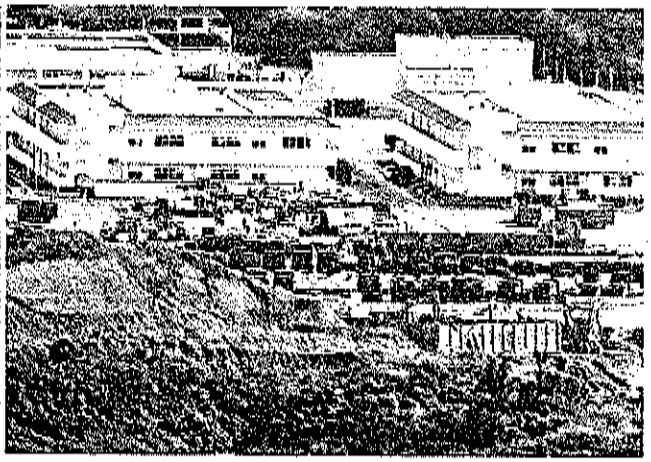
3/16 琉新

沖縄 陸自石垣駐屯地きょう開設

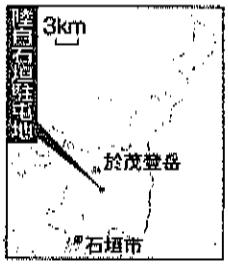
島の軍事要塞化ノー 声広がる

住民の反撃を顧みずミサイル基地建設が強行されてきた沖縄県石垣市で、防衛省は16日、陸上自衛隊石垣駐屯地を開設します。岸田政公政権が敵基地攻撃能力の保有を推し進める中で、その具体化として新たに開設されるミサイル基地。再び沖縄を戦場にしかねない石垣島の軍事要塞化に、住民の中では不安と怒りが広がっています。



開設式典を迎えた石垣駐屯地（15日、沖縄県石垣市）

長射程ミサイル配備も



石垣島の北部にそびえる於茂登岳。その山麓にある平野大保地区の緑豊かな山林を切り開き、基地は造られています。

開設が翌日に迫った15日も、基地の西側では午前7時台から重機が稼働。造成工事が続けられていました。基地周辺を見下ろす展望台からは、視認できる範囲だけでも機関砲の軍用車両が約70台並んでいました。

防衛省は5日以降、ミサイル発射機を含む車両の基地内搬入を続けています。14日夕も輸送船舶を基地に向かって走る自衛隊の車両が数台運ばれて確認されました。

防衛省によると石垣駐屯地に配備されるのは車両約200台、隊員約570人。地上から発射して陸上の艦艇を攻撃するための12式地対艦ミサイル（射程200キロ）などを扱う部隊が置かれます。

さらに岸田政公政権は、昨年末に閣議決定を強行した安保3文書で、敵基地攻撃を担う「スタンド・オフ・ミサイル部隊」の配置を明記。地対艦ミサイル連隊（7個）などに1000キロ以上の長射程ミサイルを配備するとしており、石垣島や宮古島などが配備先として挙がっています。

石垣島に軍事基地をつくらせない市民連絡会の共同代表の一人、波照間宏さん（55）は「いろいろな情報を集めてみるとすぐではないかもしれないけれど、（長射程ミサイル配備は）相当いなく出てくるだろう」と話します。

安保3文書は日米の軍事融合化をうたっています。波照間さんは、この流れの中で米軍の能力を自衛隊に移行しようとの動きが見えると指摘。仮に「台湾有事」が起きても、アメリカはロシアのウクライナ侵攻のように、直接の武力介入を避ける可能性もあると話します。

「日本独自に（対中国の）盾をつくらされるかもしれないと考えると本当に怖い。それ（これ）から先のことを考え、今できるのは軍事要塞化を許さないと声を上げ続けていくこと」

安全どころか命の危険

江川勝久さん

石垣駐屯地の開設にあたって防衛省は「抑止力と対処力を高め、国民の安全につながる」などと説明しています。

これに対し、78年前の沖縄戦での教訓から「軍隊があるところは攻撃の標的にされる」として、軍事要塞化への根強い反発もあります。江川勝久さん（78）は、島民の一人として「国民を守る、守るというが実感として全くない。基地があるから安全というのは理解できない」と憤ります。

「石垣島にも沖縄戦当時、沖縄守備軍第32軍の独立混成第45旅団が置かれました。しかし、住民が守られるどころか、軍事が最優先された結果、住民に多大な犠牲が及んだ戦争マラリアの歴史が石垣市にはあります。誰からマラリアの有病地として恐れられてきた場所に、軍の命令で避難を強いられたため、石垣島などの多くの住民がマラリアに犠牲。3800人以上が命を奪われました。

「戦争マラリアを語り継ぐ会」の会長でもある江川さんは「私自身は戦争当時、台湾に生まれたばかりだったので、戦争マラリアの体験はありませんが、体験者のみなさんから悲惨な犠牲を学んできました」と語ります。「だから有事が起きた時、市民5万人と周辺離島の住民を避難させるのは『現実的に不可能だ』と批判します。

国・市は住民の要求無視

一方、住民の命や安全に大きくかかわる問題にもかかわらず、基地建設をめぐる防衛省や石垣市の対応は、住民の声をとことん無視するというものでした。

防衛省は基地建設着工直前の2019年2月以降、一度も住民説明会を開いていません。今回、市はホームページ上で基地開設後の22日に、説明会を開催すると告知。主催者すら明らかにしていません。

石垣島に軍事基地をつくらせない市民連絡会は今年2月27日、基地の排水問題や弾薬庫の安全性をめぐり、市民が安心できる説明が尽くされていないとして、防衛省側にただちに説明会の開催を要求。市に対しても今月14日、開設後の説明会は順序が逆だとして16日までの開催を要請しました。

また、2018年には基地建設の賛否を問うため、若い世代が中心になって住民投票の実施を求める署名運動が取り組まれました。市条例で定められた住民投票に必要な署名（有権者の4分の1）を大きく超える賛同が集まったにもかかわらず、当時の中山義隆市長は実施義務を果たしませんでした。

住民投票を求める会メンバーの川満栄史さん（35）は言います。「市民一人ひとりが自分の考えを表明しあうため、民主主義のプロセスとして住民投票の実施を求めましたが、市民の声を聞かなくてもいいと判断されました。そうして造られた基地が開設したからといって終わるわけにはいきません。台湾有事に限らず、世界中の争いは武力ではない方法で解決していくことを求め続けていきたい」

基地開設前に住民説明会開催を求める署名を集める「石垣島に軍事基地をつくらせない市民連絡会」の人たち（14日、沖縄県石垣市）